公表	事業所における自己評価総括表

○事業所名	生活支援センターじゃん			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日	～	令和7年3月15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	19名	（回答者数）	１３名
○従業者評価実施期間	令和7年3月16日	～	令和7年3月31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	５名	（回答者数）	３名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な専門性を持つ職員が日々こどもたちの支援に関わる体制づくり	多くの職員が在籍していることで、多様な専門的な視点による支援を実施することができます。指導員は児童指導員、保育士、専門職は児童指導員(キャリア）理学療法士。開所日には必ず指導員、専門職が複数名ずつこどもたちの支援に関わることができる体制づくりに取り組んでおります。	在籍している職員が継続的にこどもたちの支援に関わることができる環境づくりに取り組むことで、こどもたちの特性への理解を深め、指導員・専門職間での連携を高めることで、より支援の質を高めることができるように取り組んでまいります。
2	こどもたちの活動等のスペースを十分に確保すること	事業所の拠点はゆったりとした空間、静養室はゆっくりと過ごすことができる空間に、プレイルームではクッション性のスポーツマットを敷いた運動ができる空間になっております。また、ブレイクルーム（パニック、癇癪等対応）や相談室等も多数あり、内容や参加人数によってさまざまな活動に対応することができる空間をご用意しております	今後は多様な活動を展開するために必要な設備を導入することで、それぞれの空間でできる活動の幅を広げ、こどもたちに提供できる体験や経験を増やすことができるように取り組んでまいります。また、地域資源活用して地域交流も進めていく。
3	こどもたちが安心感を持って、楽しみを感じながら通所できる環境づくり	ご利用のこどもたちに職員が担当制で付いておりません。職員全員がご利用のこどもたち全員の特性を理解し、すべてのこどもの支援に関わることができるように取り組んでおります。そのことで、こどもたちにとっては相談できる職員がたくさんでき、こどもたちの判断で一緒に活動する職員を選択できる環境となっております。	支援に関わる職員も含め、事業所内での活動についてこどもたちが自己選択・自己決定できる環境をつくることで、これからも子どもたちが安心感や楽しみを感じられる場づくりに取り組んでまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの策定や非常災害を想定した定期的な避難訓練等の情報発信について	行政の所管部署ともご相談しながら各種マニュアルを策定したり、定期的な避難訓練を実施したりしています。また、それらの内容を定期的にSNSやホームページで発信しておりますが、保護者の皆様にしっかりと伝わっていない現状があります。	SNSやホームページ等での発信や保護者会でのご説明だけでなく、各種マニュアルや避難訓練の実施のみを扱ったお手紙等のご案内を発信していくことで、他の情報に埋もれず、保護者の皆様にしっかりと情報をお伝えすることができる仕組みづくりに取り組んでまいります。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会について	さまざまな特性のこどもたちにご利用いただいており、また、課題感もさまざまであるため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的か検討する必要があると考えております。	ご利用者の皆様全員に必要な情報は保護者会等を通してお伝えしながら、各ご家庭やこどもの個別の課題感や支援については、随時メールやお便り等で情報共有させていただき、必要に応じて面談の場を設けて課題にあわせた情報提供やアドバイス等を行ってまいりたいと考えております。
3			